吉丸一昌の作詞代表曲

・早春賦（作曲：中田章）
・故郷を離るる歌（曲：ドイツ民謡）
・浦のあけくれ（作曲：マジンギー）
・木の葉（作曲：中田章）
・蛍狩り（作曲：中田章）
・蜜蜂（曲：ドイツ民謡）

プロフィール　吉丸一昌　よしまるかずまさ

吉丸一昌は明治６年９月15日、父角内、母ノブの長男として大分県北海部郡海添村（現臼杵市海添）に生まれました。明治12年、臼杵尋常小学校へ入学した一昌は向学心に燃え、優秀な成績で大分県よりたびたび表彰されています。

臼杵尋常小学校卒業後、大分県立大分中学校（現上野丘高校）、熊本の第五高等学校（現熊本大学）へと進学しました。ここでの夏目漱石との出会いは、後の吉丸一昌の進路を決定づけています。

第五高等学校卒業後、東京帝国大学（現東京大学）国文科へ進みました。この頃より吉丸は修養塾と称し、少年10名程と生活を共にして、勉学はもとより衣食住から就職に至るまで世話をしています。それに東京で丁稚奉公している田舎出の少年や中学へ行けない者の為に、下谷中等夜学校を開設しています。

明治34年、東京帝国大学国文科を卒業して、東京府立第三中学校（現　両国高校）の教諭になりました。ここでは芥川龍之介を教えています。明治41年、東京音楽学校（現 東京藝大）の教授に招かれて生徒監に任命されています。文部省からは『尋常小学唱歌』の編さん委員で作詞の主任に任命されています。

明治45年より、童謡の先駆となる『新作唱歌』全10集を発表しました。この中に、あの早春賦、故郷を離るゝ歌、木の葉等があります。吉丸一昌は200とも300とも言われる程の歌を作っています。また若い人材をも育てています。中山晋平、大和田愛羅、本居長世、弘田龍太郎、船橋栄吉、山田耕筰など数多くの人がいます。

大正５年３月、43才の若さで他界しました。

ご案内図



開館時間　9:00～17:00

開館日　土日祝及び年末年始（12月29日～翌年の1月3日）
※上記の開館日以外に入館を希望する方は入館希望日の3日前までにお電話で事前予約できます。

入館料　一般220円・小中学生110円
（20名以上様から団体料金有り）

吉丸一昌記念館　早春賦の館

大分県臼杵市大字市浜980番地
TEL 0972-63-7999

大分県臼杵市産業観光課
TEL 0972-63-1111　FAX 0972-64-0203

臼杵市観光交流プラザ
大分県臼杵市大字臼杵 100-2
TEL 0972-63-1715

(一社)臼杵市観光協会
TEL 0972-64-7130
http://www.usuki-kanko.com/



臼杵市観光PRキャラクター
ほうとさん

2024.10.2000

吉丸一昌記念館

早春賦の館

吉丸一昌記念館「早春賦の館」は臼杵市が生んだ有名な国文学者、吉丸一昌の生誕120周年を記念して、ユキ夫人の実家（旧板井家）に平成6年4月1日開館されたものです。



吉丸一昌の略歴

明治6年	1873	9月15日、大分県北海部郡臼杵町大字海添にて父角内、母ノブの長男として生まれる。
12年	1879	臼杵尋常小学校に入学
13年	1880	学業優秀で大分県から表彰
14年	1881	学業優秀で大分県から表彰
19年	1886	臼杵尋常小学校を卒業
同		北海部郡高等小学校に入学
21年	1888	北海部郡高等小学校を卒業
22年	1889	大分中学校（現大分上野ヶ丘高等学校）に入学
27年	1894	大分中学校を卒業
27年	1894	熊本第五高等学校（現熊本大学）に入学
30年	1897	熊本第五高等学校を卒業
同		東京帝国大学（現東京大学）に入学
同		修養塾を開く
33年	1900	臼杵町市浜の板井武雄の娘、ユキと結婚
34年	1901	東京帝国大学を卒業
35年	1902	東京府立第三中学校の教諭として赴任
同		日本で初めての下谷夜間中学を創設
38年	1905	東京日本橋の池尻興の娘、常子と再婚 長男：昌武　次男：昌言　長女：恭子 3人の子供を設ける
41年	1908	「修養夜話」を出版
同		東京音楽学校の教授となる
42年	1909	文部省「尋常小学唱歌」編纂委員となる
43年	1910	文部省「尋常小学読本唱歌」発刊
45年	1912	新作唱歌を発表
同		オペレッタ「うかれだるま」を日本橋白木屋で初演 (日本で初の喜歌劇)
大正元年	1912	「お玉じゃくし」作詞
2年	1913	「早春賦」「故郷を離るる歌」作詞
3年	1914	第6学年用唱歌発刊　全6冊が完成
4年	1915	新作唱歌(全10集)が完成
5年	1916	1月「望郷の歌」が発表され、遺作となる
同	1916	3月7日、一昌死去（43歳）
昭和55年	4月	早春賦の歌碑が臼杵市中央公民館に建立 (現在大手門公園に移設)
56年	4月	市民グループにより吉丸一昌音楽祭が始まり 毎年3月に開催されている
平成6年	3月	市浜に吉丸一昌記念館「早春賦の館」開館 (ユキ夫人の実家)
15年	10月	古賀政男音楽博物館の「大衆音楽の殿堂」 に童謡音楽の顕彰者として殿堂入り
29年	3月	ブロンズ像が大手門公園に建立
令和5年	9月	生誕150周年記念吉丸一昌プロジェクト開催

早春賦

吉丸一昌　作詞

春は名のみの風の寒さや
谷の鶯　歌は思へど
時にあらずと声も立てず
時にあらずと声も立てず

氷解け去り葦は角ぐむ
さては時ぞと思ふあやにく
今日もきのふも雪の空
今日もきのふも雪の空

春と聞かねば知らでありしを
聞けば急かるゝ胸の思を
いかにせよとのこの頃か
いかにせよとのこの頃か

※中田章の作曲で『新作唱歌』第三集に載せられ全国で詩唱された。
現在も名曲として歌いつがれている。
生まれ故郷の大分県臼杵市と、舞台になったといわれている
信州安曇野に早春賦歌碑が建立されている。



▲大手門公園前

◀吉丸一昌没後百年を記念して建立したブロンズ像

早春賦の館 記念スタンプ

来館記念にスタンプを



展示室

展示品